

1 新八戸市体育館整備等事業について

～新たなプラン案での再スタート～

現在の
体育館

昭和38年竣工 ⇒ 老朽化

当初の
計画

令和8年度着手を目指して進行



直面する
課題

- ・全国的な資材・労務費の上昇による建設費高騰
- ・他自治体でも入札不調や計画見直しが相次ぐ

2 建設費高騰への対応（コスト最適化と財源確保）

① 事業費の圧縮（コスト最適化：必要機能及び床面積の精査）

- ・ 従来プラン：延べ床面積 約13,000m²（令和7年12月）
- ・ 新プラン案：延べ床面積 約11,000m²（約2000m²の減）

② 財源確保の取組（国庫補助金の最大活用）

- ・ 社会資本整備総合交付金（国土交通省）
- ・ 民生安定施設設置助成事業（防衛省）
- ・ 地域未来交付金（内閣府）



財政負担を軽減しつつ、早期供用開始を目指す！

3 新フロアプラン案のポイント



メインアリーナ（バスケットコート2面）

サブアリーナ（バスケットコート1面）

※武道場は新体育館への整備は見合わせ、
現武道館の改修により対応

キッズゾーン・コミュニティゾーン
・カフェ等【新機能】

トレーニングルーム

冷暖房設備 / 防災機能（指定避難所） / ZEB化（省エネ）

延べ床面積：11,000㎡程度

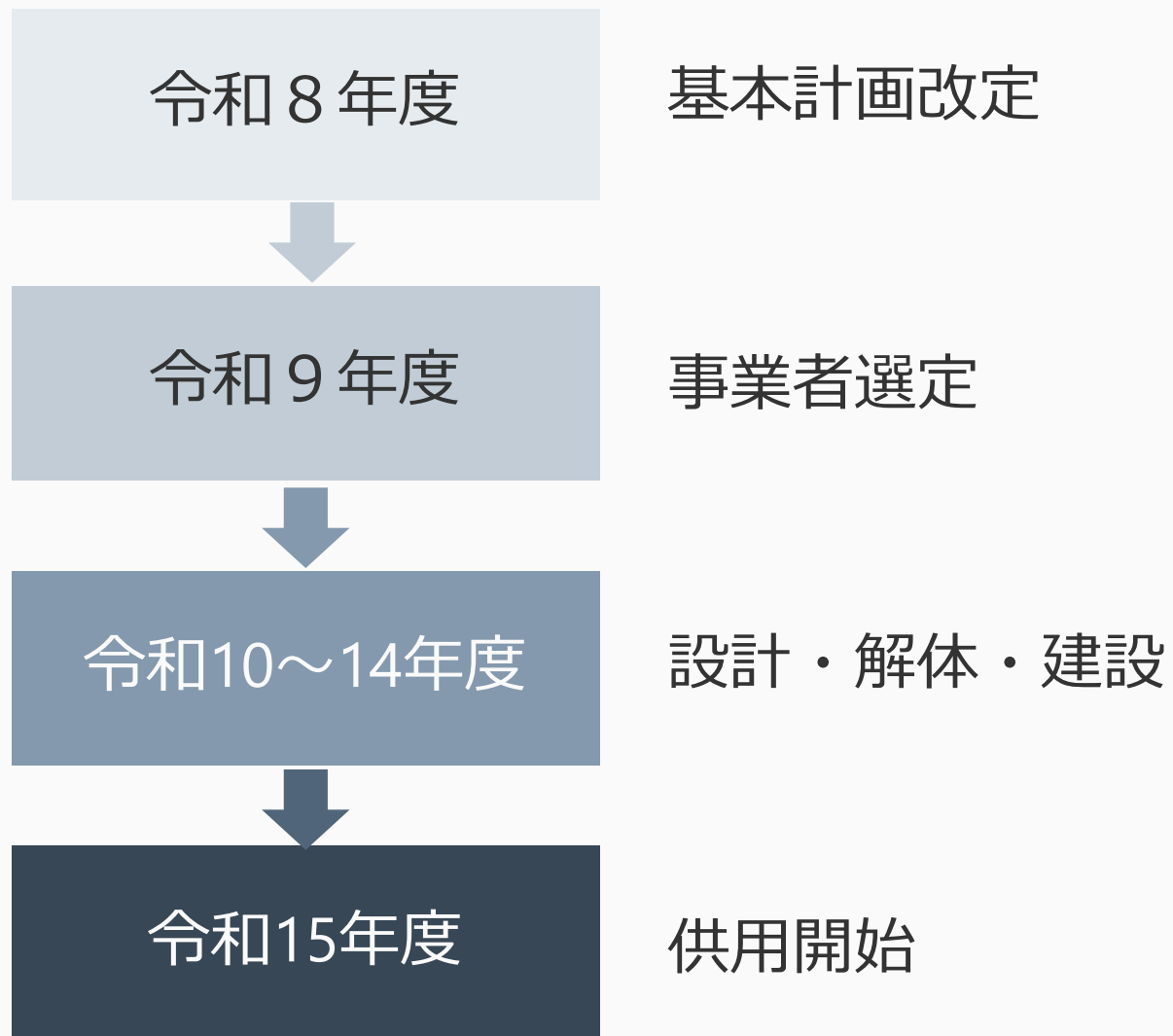
※本画像は生成AIによる視覚的な完成イメージであり、実際の設計・構造とは異なります

4 キッズゾーン・コミュニティゾーン・カフェのイメージ



※本画像は生成AIによる視覚的な完成イメージであり、実際の設計・構造とは異なります

5 今後のスケジュール



6 結びに

- ◎ 持続可能な市政運営とスポーツ環境の充実の両立
- ◎ 次世代へ誇れる施設づくり



※本画像は生成AIによる視覚的な完成イメージであり、実際の設計・構造とは異なります